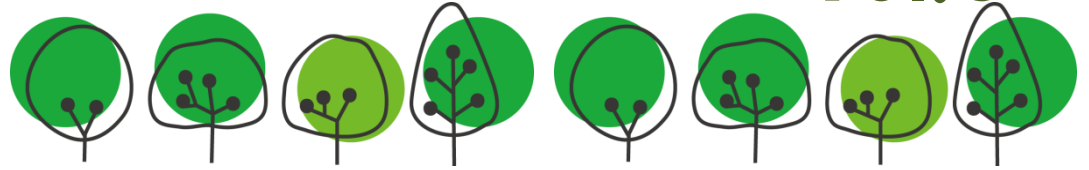




木地師のふるさと

vol.3



「木地師文化フォーラム」を開催しました

7月16日に木地師やまの子の家で「木地師文化フォーラム」を開催しました。

北は福島県から南は福岡県まで、全国から木地師にゆかりのある方や関心をお持ちの方約180名にご参加いただきました。



当日プログラム

- ◎市長挨拶 小椋正清（東近江市長）
- ◎基調講演①
「日本の山の民と中国の山の民」
講師：櫻井龍彦さん（名古屋大学名誉教授）
- ◎基調講演②
「遺産としての木地師文化—その歴史的価値について—」
講師：筒井正さん（愛知学泉大学准教授）
- ◎木地産地における活動事例紹介
「庄川挽物木地と美術館」
講師：末永忠宏さん
（松村外次郎記念庄川美術館 主任学芸員）
- ◎質疑応答

1階のホールでは、市が所有している木地製品の展示、地元の木地師による木地製品の展示即売、全国の木地師に関わる施設の紹介などを行い、全国の情報をお届けしました。



基調講演「日本の山の民と中国の山の民」

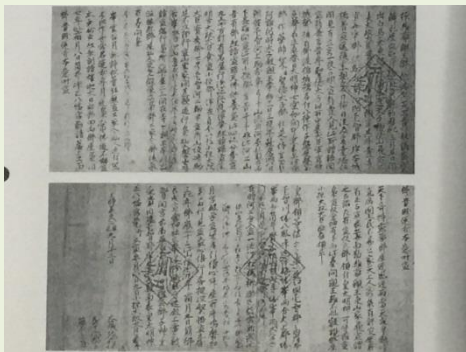
櫻井龍彦さんには「日本の山の民と中国の山の民」と題した基調講演を行っていただきました。

まず、日中両国の山の民を比較してみえてくる日本の木地師の特徴について、お話を始めます。

木地師は惟喬親王の随身の末裔であるという伝承から、自らの出自に高い誇りを持ち、天皇や幕府などが特権を与えたと称する由緒書^{ゆいしょがき}を所持して各地を自由に移動していました。こうした天皇や将軍が特権を公認したとする発給文書を持って山地を渡り歩いた人々は、日本だけではなく、中国にもいました。山岳民族のヤオ族です。広西^{くわいせい}、湖南^{こなん}、雲南^{うんなん}、広東^{かんとう}、貴州^{きしゅう}などの海拔1,000m前後の山地に住むヤオ族はもと長江中流域にいた民族でした。支配民族などの圧迫もあって歴史的には山岳地帯で焼畑・狩猟などに従事しながら南下していった非定住民^{ひていじゅうみん}です。南進の結果、今日ではベトナム、ラオス、タイなどにも分布しています。



ヤオ族は皇帝が発給したという『評皇券牒』(『過山榜』とも言う)という漢字で書かれた偽文書を持っています。内容は木地師文書に相当するもので、焼畑・狩猟をする彼らが山中を自由に移動できることを保証した特許状や通行証のようなものです。また『槃瓠犬祖神話』^{ばんこけんそしんわ}を伝承し、民族の始祖は皇帝の娘と飼っていた番犬との間に生まれた子孫であり、自分たちの出自が皇帝につながる高貴な身分であると考えています。この点も木地師と似ています。両者の類似と相違はいくつか指摘されますが、大きな違いは木地師が職業集団であるのに対し、ヤオ族は民族集団であること、ヤオ族は皇族に対して敵将討伐の手柄を立てたことで特権を与えられているのに対し、木地師にはそのような功績がないこと、ヤオ族には木地師の「氏子狩(駟)」のような、発祥地と移住地を支配と保護の関係で組織する制度がないことなどでしょう。



惟喬親王御縁起
蛭谷筒井神社内木地師資料館所蔵



ヤオ族の評皇券牒
出典：白鳥芳郎編『東南アジア山地民族誌』講談社

次に、照葉樹林地帯に分布する木地師文化の実態についてお話しします。ろくろの種類や挽き方の技術、道具のカナナ、材料となる木の種類、うるし塗りとの関係、木地製品の分類、伝播のルートなどまだ調べなければならない問題は多く残っていますが、中国ではチベット族、メンパ族、イ族、ウイグル族、トン族、漢族など、アジアではマレーシア、インドネシア、タイ、ネパール、パキスタン、ブータン、チベット、イランなどに存在が確認できます。また、彼らも日本の木地師のような道具を使い、器などを作っていました。



ブータンの足踏みろくろ
出典：http://kosoken.blogspot.com/2016/07/1_9.html

基調講演「遺産としての木地師文化—その歴史的価値について—」

筒井正さんには「遺産としての木地師文化—その歴史的価値について—」と題した基調講演を行っていただきました。

民族の文化の根底にあって、その文化の存立を支えている部分を基層文化と言います。従来、稲作文化が日本の基層であると考えられてきましたが、近年、東アジアの照葉樹林地帯で成立した焼畑農耕文化が日本の基層であるという考え方が支配的となっています。焼畑や森の文化を基層とするならば、その担い手は山地に居住する「山民」ということになります。

山村をその資源利用のタイプから分類すると、①狩猟、②木地師、③焼畑経営の3つの集落形態に大別できます。木地師は木製容器の製造を生業としてその職を継承してきました。木地師の研究は、わが国の基層文化の研究に欠かすことのできない領域であるといえるでしょう。

木地師の研究は、明治中期に、御料局（後の帝室林野局）職員田中長嶺^{たなかながね}によって始められました。田中が奥三河の稲橋村（現豊田市稲武町）に出張した際、豪農古橋暉兒^{ふるはしてゐるのり}と知己を得ました。古橋から木地師とその伝承について聞き、同氏から木地業の祖神惟喬親王の偉業について調査依頼を受けました。田中はそれ以後、木地師や惟喬親王の研究に打ち込み、蛭谷・君ヶ畑をはじめ、各地を歴訪して調査を行い、明治27年、『小野宮御偉績考』^{おののみやごいせきこう}と題して刊行しました。出版の費用は、古橋家が提供しています。『同書』は木地師研究の先駆けとなりました。

『同書』を読んだ柳田国男^{やなぎたくにお}は、大正14年に『史料としての伝説』を刊行し、木地師研究が本格始動しました。柳田は知人で歴史学者の牧野信之助^{まきのしんのすけ}に自著を送付し意見を求めました。牧野は蛭谷・君ヶ畑を訪れ、木地師関連の史料を調査し、論旨・免許状などの木地屋文書は後世に作成された偽文書であると断定しました。このような見解は、歴史学者の共通認識となり、これ以降、木地屋文書に関して歴史学者の間では等閑視されることとなったのです。

その後、農業経済学の立場から杉本寿^{すぎもとひさし}は、蛭谷が収蔵する「氏子駈帳」を整理し、全国各地の木地師集落を歴訪して資料を収集し、数々の書籍を発表しています。杉本によって木地師研究の基礎が築かれました。また、民俗学者の橋本鉄男は、君ヶ畑の「氏子狩帳」の整理分析、さらには、東北地方を中心として調査を行い、民俗学における木地師研究の確固たる地位を確立しました。

「氏子駈帳」や「氏子狩帳」の翻刻により、木地師研究の裾野が拡大し、研究者の層も厚くなりました。また、自治体史の編さんに際して、木地師を取り上げるケースも多くなってきました。

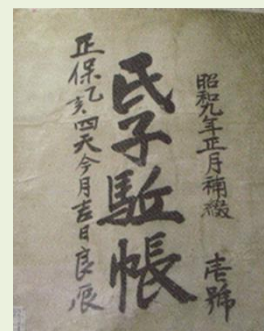
わが国は、国土の7割が森林で占められており、森林資源が日本の文化を育んできました。森の恵みを受けるとともに、森を保護してきたのは木地師たちです。木地師文化の研究が、私たちが忘れてしまった、「自然を畏怖する心」を取り戻し、木の温もりがもたらす「おもてなしの文化」を再興し、荒れ果てた森林を元の美しい姿に戻すその取組の縁になればと願う次第です。



三河の豪農古橋暉兒



田中長嶺



氏子駈帳

木地産地における活動事例紹介～富山県砺波市～

富山県砺波市にある松村外次郎記念庄川美術館の末永忠宏さんには、「庄川挽物木地と美術館」と題して、木地産地における活動事例の紹介を行っていただきました。

庄川挽物木地は、古くから木材集散地として栄えた地で、永年受け継がれてきた伝統の技で作られた木目が美しく丈夫な逸品として、今も作り続けられています。

庄川美術館では、平成4年に「第1回日本の挽物展」が開催されています。当時、国内でも初の試みとして始まった企画で、地元庄川挽物組合などで構成される運営委員会が、大変苦勞をして出展者を集められました。その甲斐もあって、当時の町の人口の約3割に相当する2,080人が来場し、大成功となりました。

それから約30年にわたって庄川美術館の活動とともに、ろくろ木工芸展が開催されており、5年ぶりに今年「第8回全国ろくろ木工芸展」が開催されます。会期は10月13日～11月11日です。ぜひとも富山の奥座敷、庄川峡に足をお運びいただけたらと思います。

詳しくは、「松村外次郎記念 庄川美術館」（富山県砺波市庄川町金屋1066、TEL：0763-82-3373）まで。



足踏みろくろの実演

三重県三重郡菟野町の「木工足踏轆轤工房」の高橋力男さんに、足踏ロクロをご持参いただき、実演をおこなっていただきました。

なかなか実際に見るできない足踏ロクロに多くの方が真剣にご覧になっていました。



募集

木地師資料調査ボランティアスタッフ

東近江市では、市の所有する木地師に関する資料や製品の整理・分類作業を行い、国の民俗文化財への登録を目指したいと思っています。その整理・分類作業をになっていただくボランティアスタッフを募集します。

詳細は同封のチラシをご覧ください。第1回開催以降からの参加も可能です。ご興味をお持ちの方はぜひ一度お問い合わせください。

木地師のふるさと 東近江市

発行：東近江市企画部企画課

〒527-8527 滋賀県東近江市八日市緑町 10 番 5 号

TEL（代表）0748-24-1234 （直通）0748-24-5610

FAX 0748-24-1457

Email kikaku@city.higashiomi.lg.jp

Facebook <https://www.facebook.com/higashioumi.kijishi>

（Facebook では随時、お知らせ等を行っています！！）